

9	尾北	犬山市立南部中学校	キクタニ ミズキ 氏名 菊谷 瑞生
分科会番号	1 2	分科会名	保健体育（体育）（ 中学校 ）

研究題目

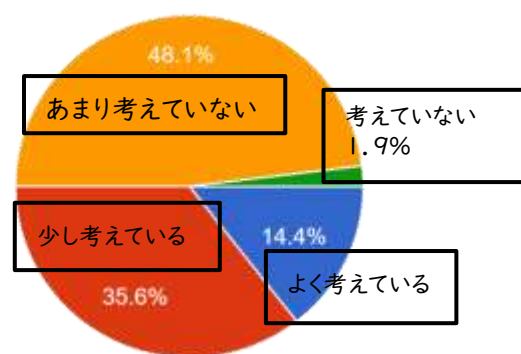
自ら考え行動する生徒の育成
～ただの運動ではなく、思考する体育を目指して～

1 主題設定の理由

現行の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められており、保健体育科においても基本的な技能の習得や運動量の確保だけではなく、課題を見つけて解決しようとする思考力や、他者と協働して行動する力の育成が重視されている。本校では、現職教育テーマとして「新しい時代に必要となる資質・能力を高める生徒の育成～課題解決に向けて、主体的で協働的に学ぶ生徒の姿を目指して～」を掲げ、日々の教育活動で大切にしている。しかし、実際の体育の授業では、「指示通りの運動」や「ただ動くだけの時間」になってきた面も少なくないを考える。保健体育科学習指導要領の教科の目標には、思考力、判断力、表現力等に記載されている「運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う」と記載されている。この目標を達成するために、学びの質を深め、生徒の内発的な意欲や主体性を育て、体育の授業を「考える場」「課題解決の場」として捉え直し、生徒が自ら課題を発見し、仲間と協力したり、試行錯誤したりして、試行錯誤を重ね、解決策を導き出していく学びの姿を目指したいと考えた。そこで、生徒の実態を把握するため、本校1年生を対象として9月に事前アンケート調査【資料1】を行った。

「授業中にどうすればうまくいくかを自分で考えながら動いていますか」という質問に対して、よく考えていると回答した生徒は全体の14.4%、少し考えているが35.6%、あまり考えていないが48.1%、考えていないが1.9%だった。

これらの結果から、生徒に競技力の向上だけではなく、思考力、判断力、表現力、そして主体性や協働性といった、これからの社会で求められる資質・能力も同時に育みたいと考えた。そこで、本研究では、運動が苦手な生徒でも積極的に参加できる「球技（ネット型）」の「バレーボール」を通して、生徒が思考し続ける体育を目指していけば、生徒が自ら考え行動する力を養うことができるだろうと考え、本研究の主題を設定した。



【資料1：事前アンケート】

2 研究の仮説

本校1年生の体育では、指示を待つ姿勢や、失敗を恐れて消極的になる生徒の姿が多く見られた。そこで、課題を自分たちで考えたり、振り返りを通して次の活動につなげたりする場を取り入れることで、生徒の主体的な思考と行動が引き出せるのではないかと考え、次のような仮説を立てた。

【仮説】

- （1）生徒自身が「どうすればラリーが続くのか」「どうすれば勝てるのか」といった課題を設定し、仲間と協力して解決策を考える活動を取り入れることで、自ら考え行動する力が育成されるだろう。
- （2）毎時間の学習後の振り返りや授業内に作戦会議（役割分担を意識した話し合い活動）の時間を設けることで、生徒は自分たちのプレーを客観的に見直し、次の時間の活動を主体的に選択するようになるだろう。

3 研究の手立て

(1) 生徒の振り返りから次時の課題提示を決定

毎時間の授業冒頭に、前時の生徒の振り返りを共有する。生徒の振り返りを「テキストマイニング」で分析し、それをもとに考えた「本時の課題」や「めあて」を生徒と共有し、個人・グループの課題を考える時間を設定することで、自ら課題を見出し、その課題を達成するために思考する力を引き出すことができるようにする。

(2) 役割分担を意識した話し合い活動の実施

チーム内に「キャプテン」、「ラリー係」「アタック係」、「サーブ係」、「記録係」の役割を設け、自分の役割としての意見や考えを伝え合う活動を通して、生徒が自分の役割に責任をもち、前向きな気持ちで授業に取り組めるようにする。

(3) 生徒アンケート・振り返り記述の分析

単元の初めと終わりにアンケートを実施する。（「授業中にどうすればうまくいくかを自分で考えながら動いていますか」「チームで話し合ったり、作戦を立てることが増えたか」「チームでの話し合いや協力の中で、自分の役割を意識できたか」など）。また、生徒の振り返りの記述から、生徒の思考・意識の変化を読み取ることで、生徒自身の内面の変容を把握する。

4 検証の方法

(1) 振り返りカードの記述分析

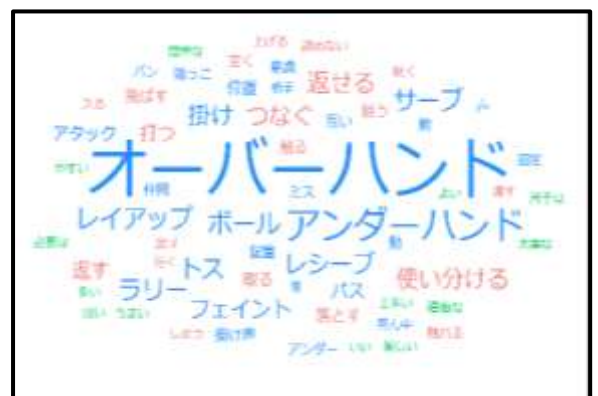
(2) 生徒同士の話し合いの様子

(3) 事前アンケートと事後アンケートの比較

5 研究の実践と考察

(1) 課題提示・話し合い活動（課題解決トーク）の導入

バレーボールの授業において、タブレット PC を活用した振り返り活動を行い、その記述をテキストマイニングツール（資料2）で分析する授業実践を行った。生徒一人一人の言葉を可視化し、学級全体の課題として共有することで、自分だけの課題ではなく、仲間も同じような課題を抱えていることに気付かせることをねらいとした。また、毎時間の振り返りを次時の授業へつなげることで、生徒が「振り返って終わり」ではなく、「次の授業で改善する」という意識をもてるように工夫した。



【資料2:テキストマイニング】

各時間の終末では、生徒は Google フォームに「今日の学び」「うまくいったこと」「次に工夫したいこと」を入力した。教師はその日のうちに記述内容を分析し、頻出語句や特徴的な記述を抽出した。第3時終了後の分析では、「声」「位置」「つなぐ」「協力」といった言葉が多く見られたことから、第4時では「チームで声を掛け合うためにはどうすればよいか。」「ボールをつなぐためにはどの位置に動けばよいか。」という共通課題を提示した。

授業の導入では、「みんなの振り返りで多かった言葉はこれです」とワードクラウドを提示したことで、生徒は自分たちの学びが次の授業に反映されていることを実感し、自然と課題意識をもって授業に参加する姿が見られた。また、「自分たちだけができていないわけではない」と安心感をもつ生徒も見られ、積極的に課題へ挑戦する雰囲気づくりにもつながった。

教師は一方的に改善方法を示すのではなく、「どうすればもっとラリーが続くだろう。」「声を掛けるタイミングはいつがよいだろう。」と問い返す発問を意識した。その結果、生徒同士で「もっと早く声を出した方が

いい。」「レシーブした人だけではなく、周りも声を掛けよう。」といった対話が自然と生まれるようになった。授業中には、「やっぱり声って大事だね。」「自分たちも位置を変えてみよう。」といった前向きな発言が増え、これまで静かだったチームでも互いに声を掛け合う姿が見られるようになった。また、ラリーが続く回数も徐々に増加し、生徒自身が課題を意識して行動を変えていることがうかがえた。

試合後の振り返りでは、「声を掛けるとチームが動きやすくなった。」「誰がボールを取るのかが分かりやすくなり協力できた。」「仲間の動きを見ながら自分の位置を考えられるようになった。」といった記述が増えた。（資料3）

これらのことから、生徒が自らの振り返りを次時の課題につなげる学習サイクルが形成され、手立て（1）は主体的な思考と行動を促す上で有効であったと考えられる。さらに、教師が課題を与えるだけではなく、生徒自身の言葉を授業づくりに生かしたことで、「自分たちで授業をつくっている」という意識も芽生え始めた。教師主導ではなく、生徒の実態をもとに授業を展開したことが、生徒の主体性を高める大きな要因となったと考えられる。

【本時の振り返り】

今日はボールを落としてしまうことが多かった。次の授業では、もう少し周りを見て動けるようにしたいです。

【本時の振り返り】

チームでうまくいかなかったところを次にどう変えていくかを話し合えたのでよかった。次はそれを実践していきたい。

【資料3：生徒振り返り記述】

（2）役割分担を意識した話し合い活動の実施

自らの意見や考えをもち、それを他者に伝える力を育むため、役割分担を意識した話し合い活動（写真1）を取り入れた。単元第4時からは、各チームに「キャプテン」「サーブ係」「レシーブ係」「アタック係」「記録係」の役割を設定し、それぞれが自分の役割を意識しながら作戦会議を行った。

教師は話し合いが停滞している班に対して、「レシーブ係として今困っていることは何かな。」「サーブ係は相手のどこを狙えば得点につながるかな。」など、それぞれの役割に応じた問い掛けを行った。答えを教えるのではなく、生徒が考えるきっかけを与える支援を意識したことで、少しずつ全員が話し合いに参加する姿が見られるようになった。活動当初は、キャプテンだけが話し、他の生徒はうなづくだけという場面が多く見られた。しかし、役割を明確にしたことで、「自分が担当している場面については自分が発言する」という意識が生まれ、徐々に全員が自分の考えを伝えるようになった。例えば、サーブ係の生徒が「相手の前に落としたり取りにくそう。」と提案すると、レシーブ係の生徒が「その後は後ろが空くから前に詰めよう。」と意見を付け加える場面が見られた。

また、アタック係からは「相手が前に集まったら後ろに返そう。」など、ゲームの状況を踏まえた具体的な作



【写真1：作戦会議をする生徒たち】

戦も出されるようになった。話し合いの内容は作戦カード（資料4）へ記録し毎時間改善を繰り返した。教師は「前回の作戦はうまくいったかな。」「変えるなら何を変えるか。」「と問い掛けることで、振り返りと次時への見通しをつなぐ支援を行った。単元後半では、「作戦を考えるのが楽しい。」「みんなで考えた作戦が成功すると嬉しい。」「という声も聞かれ、話し合い活動そのものに価値を見いだす生徒が増えた。さらに、ゲーム中にも「さっき決めた作戦をやってみよう。」「今は前を狙おう。」など、話し合いと実際のプレーが結び付く場面が多く見られた。

このことから、役割分担を明確にした話し合い活動は、生徒が自分の役割に責任をもち、仲間と協働しながら課題を解決しようとする姿勢を育てることにつながったと考えられる。また、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを受け入れながらよりよい作戦をつくり上げる経験は、思考力・判断力・表現力の育成にも効果的であったと考えられる。

バレーボール作戦カード
Volleyball

チーム名: BBC

チームの目標: みんなで協力して、レシーブをうまくしよう

①今日の課題: 声を出して、ラリーを繋ぎたい。

②作戦
・ボールを高くあげて、周りをよく見る。・サーブをするときには、アンサーを準備して、オーパスを準備する。
・声を出す。

③役割分担

役割	名前
キャプテン(チームをまとめる・話し合い活動の中心)	あみ
ラリー係(ボールをつなぐ工夫を考える)	たけし
アタック係(点数をとるための方法を考える)	ゆづり
サーブ係(サーブの工夫を考える)	あけ
記録係(作戦とチームのふりかえりを記入)	ゆづり
評価係(コートの外から分析)	あけ

④振り返り

うまくいったこと	ボールを上げて、点を取った。 声をだして。
うまくいかなかったこと	サーブがうまくいかなかった。 アンサーとレシーブの連携がうまくいかなかった。
次に工夫したいこと	ポジションの並び方。

⑤振り返りから分析するチームの課題

・ポジションの並び方。
・声をだす意識(名前とか)

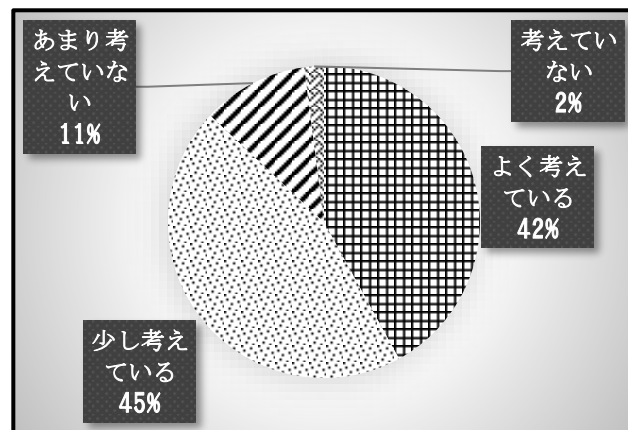
【資料4:生徒が記入した作戦カード】

(3) 生徒アンケート・振り返り記述の分析

単元終了後、事前アンケートと同じ内容で事後アンケート（資料5）を実施した。結果を比較すると、「授業中にどうすればうまくいくかを考えながら行動している」と回答した生徒の割合が増加し、「あまり考えていない」「考えていない」と回答した生徒は減少した。数値の変化からも、生徒が課題を意識しながら活動する姿勢が育まれたことが分かる。また、自由記述では、「自分で考えて動くことが増えた。」「

「仲間と話し合うことで新しい考えに気付けた。」「作戦を立てることでゲームが楽しくなった。」など、思考することや対話することの価値に触れる記述が多く見られた。一方で、単に「勝てて嬉しかった。」という結果だけではなく、「どうしたら勝てるかを考えることが楽しかった。」という記述も増えており、生徒の意識が結果だけではなく、そこへ至る過程にも向けられるようになったことが分かる。

毎時間の振り返りについても、単元前半は「楽しかった」「疲れた」「難しかった」といった活動の感想を述べる記述が中心であったが、単元後半になると、「相手コートの空いている場所を狙うことを意識した。」「レシーブの位置を変えたことでラリーが続いた。」「もっと早く声を掛ければよかった。」など、自分のプレーを分析し、改善点まで具体的に記述する生徒が増加した。（資料6）



【資料5:事後アンケート】

【単元の振り返り】

バレーボールの単元では、チームで話し合いながら作戦を立て、みんなで力を合わせてプレーすることができました。最初はただボールを追いかけているだけだったけど、次第に仲間の位置や相手のチームの動きを見て、自分の動きを考えることができるようになりました。レシーブの時は次の人が打ちやすいようにあげる、サーブでは相手のいないところを狙うことを意識したりしました。また、作戦会議を通して、自分の役割を考えながら動くことができたり、チームで作戦が成功したときの喜びを感じることもできました。これからは、バレーボールの授業で大切にしたい考えて行動したり、自分の考えを伝えることを他の単元になっても意識していきたいです。

【資料6:単元最後の生徒の振り返り】

テキストマイニングによる分析（資料7）でも、「考える」「協力」「声」「位置」「作戦」「仲間」といった言葉の出現頻度が増えたことから、生徒の学びが技能面だけではなく、思考面や協働面へ広がっていったことがうかがえた。特に「作戦」という言葉は単元後半にかけて増加しており、ゲームをただ行うだけではなく、目的をもってプレーする意識が高まったことが読み取れる。

授業中の様子からも、生徒同士で

「次はこうしてみよう」「今の作戦はどうだった」と自然に対話する場面が増えた。教師が関わらなくても話し合いを始める班が見られ、自分たちで課題を見付け、自分たちで改善策を考える姿が見られたことは、本研究が目指した「自ら考え行動する生徒」の姿に近づいた成果であると考えられる。

一方で、すべての生徒が同じように主体的に考えられるようになったわけではない。話し合いの中でも意見を出すことに消極的な生徒や、仲間の意見に頼ってしまう生徒も見られた。そのため、教師が適切な問い掛けを行い、一人一人が考えを表現できるよう支援することの重要性も改めて確認することができた。

以上のことから、Google フォームによる振り返りとテキストマイニングを活用した課題提示、さらに役割分担を取り入れた話し合い活動を組み合わせることで、生徒は毎時間課題を意識しながら学習を進め、自ら考え行動する力を高めることにつながったと考える。

6 成果と課題

(1) 成果

本研究では、「自ら考え行動する生徒の育成」を主題とし、Google フォームを活用した振り返り活動、テキストマイニングによる課題提示、役割分担を取り入れた話し合い活動を実践した。

その結果、生徒が課題を自分事として捉え、仲間と協働しながら課題解決に向けて主体的に取り組む姿が多く見られるようになった。



【資料7:単元の振り返りテキストマイニング】

事前・事後アンケートの比較では、「授業中にどうすればうまくいくかを考えながら行動している」と回答した生徒の割合が増加し、「あまり考えていない」「考えていない」と回答した生徒は減少した。

この結果から、生徒が教師から与えられた課題に取り組むだけでなく、自ら課題を見付け、改善しようとする意識が高まったことがうかがえる。また、ゲーム中に教師へ指示を求める場面が減少し、生徒同士で相談しながら改善策を考える姿が多く見られたことも、生徒の主体性が育まれたことを示す成果である。

毎時間の振り返りでは、単元前半は「楽しかった」「疲れた」といった感想が中心であったが、単元後半には「相手コートに空いている場所を狙うことを意識した。」「レシーブ後の動きを改善したことでラリーが続いた。」など、自分のプレーを分析し、次時の改善策まで具体的に記述する生徒が増加した。さらに、「仲間の声掛けで動きやすくなった。」「みんなで考えた作戦が成功した。」など、個人だけではなくチーム全体の学びを振り返る記述も多く見られるようになった。このことから、生徒は振り返りを単なる感想ではなく、自らの学びを改善するための活動として捉えられるようになったと考えられる。

テキストマイニングによる分析では、「考える」「協力」「作戦」「仲間」「声」などの言葉が単元後半にかけて増加した。これは、生徒の意識が技能面だけではなく、思考や協働へ広がっていったことを示している。教師にとっても、生徒の実態を客観的に把握し、その結果を授業改善に生かすことができた点は大きな成果であった。さらに、役割分担を取り入れた話し合い活動では、一部の生徒だけが発言する状況から、全員が役割に応じて自分の考えを伝える姿へと変容が見られた。ゲーム中にも話し合いで決めた作戦を試し、その結果を基に再度改善する姿が見られ、課題を発見し、考え、実践し、振り返るという学習サイクルが定着した。このような活動を繰り返したことで、生徒が主体的に考え行動する力の育成につながったと考えられる。

(2) 課題

本研究を通して今後の課題も明らかになった。第一に、生徒の主体性には個人差が見られたことである。話し合い活動では積極的に意見を発表する生徒がいる一方、自分の考えをもっていないが発言することに自信がなく、仲間の意見に頼ってしまう生徒も見られた。役割を設定することで発言の機会は増えたものの、全ての生徒が主体的に話し合いへ参加できたとは言えない。今後は、一人一人が安心して考えを表現できる話し合いの進め方や、教師による問い返しの工夫などをさらに充実させる必要がある。

第二に、作戦を立てることが目的となり、ゲーム中の状況変化に応じて柔軟に修正できない班も見られた。話し合いで考えた内容を実際のプレーへ結び付けるためには、ゲーム中にも短時間で振り返る時間を設定したり、試合の途中で作戦を見直したりする活動を取り入れるなど、思考と実践を往還する学習過程をさらに工夫する必要がある。

第三に、本研究はバレーボール単元での実践であるため、他の領域においても同様の手立てが有効であるかについては十分に検証できていない。ゴール型やベースボール型、陸上運動など、それぞれの教材の特性に応じて課題設定や話し合い活動を工夫し、実践を積み重ねることで、より汎用性の高い指導方法へと発展させていく必要がある。また、テキストマイニングは生徒の学びを客観的に分析する上で有効であったが、単語の出現頻度だけでは生徒の思考の深まりを十分に把握できない側面もある。今後は、生徒へのインタビューや授業中の発話記録、作戦カードの内容なども合わせて分析することで、より多面的に生徒の変容を捉えていきたい。

今後も、生徒が教師から答えを与えられるのではなく、自ら課題を見付け、仲間と協働しながら考え、実践し、振り返る授業づくりを継続していきたい。そして、体育科における学びを通して、運動技能だけではなく、生涯にわたって必要となる主体性や思考力、判断力、表現力、協働する力を育成できる授業を目指し、実践と改善を積み重ねていきたい。